

第 50 回沖縄実技セミナー 開催報告

開催日：2017年7月16日（日）

時間：13:00～17:00

開催場所：中部地区医師会立 ぐしかわ看護専門学校

主催：社会医療法人敬愛会 中頭病院

共催：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®

協賛：有限会社沖縄総合フーズ 日清オイリオグループ株式会社
株式会社大塚製薬工場

後援：中部地区医師会立 ぐしかわ看護専門学校

<敬称略>

【開催目的】

高齢化に伴い、複数の原因による摂食嚥下障害を有する高齢者が多くなり、医療・介護・福祉での食事ケアの充実、技術の向上が必要とされている。今回食事支援に必要な、機能的器質的口腔ケア、安全安楽なポジショニング、早期経口摂取につながるベッドサイドスクリーニング評価、安全で効率的、自立を目指した食事介助の基本的事項について知識と技術を習得する。そのことで、食べることに困難を有した人々への効果的な支援ができることを目的として開催する。

【プログラム概要】

1. 口から食べることをサポートするための包括的スキル
—KT バランスチャートの活用と支援—について（講義）
2. 早期経口摂取開始に向けたベッドサイドスクリーニング評価（演習）
3. 安全で効率的な食事介助方法（ベッド上での食事時の基本姿勢を中心に）（演習）
4. 車椅子での食事姿勢、自立を目指した食事介助技術（演習）
5. まとめ・質疑応答

講師・アドバイザー 一覧

<敬称略>

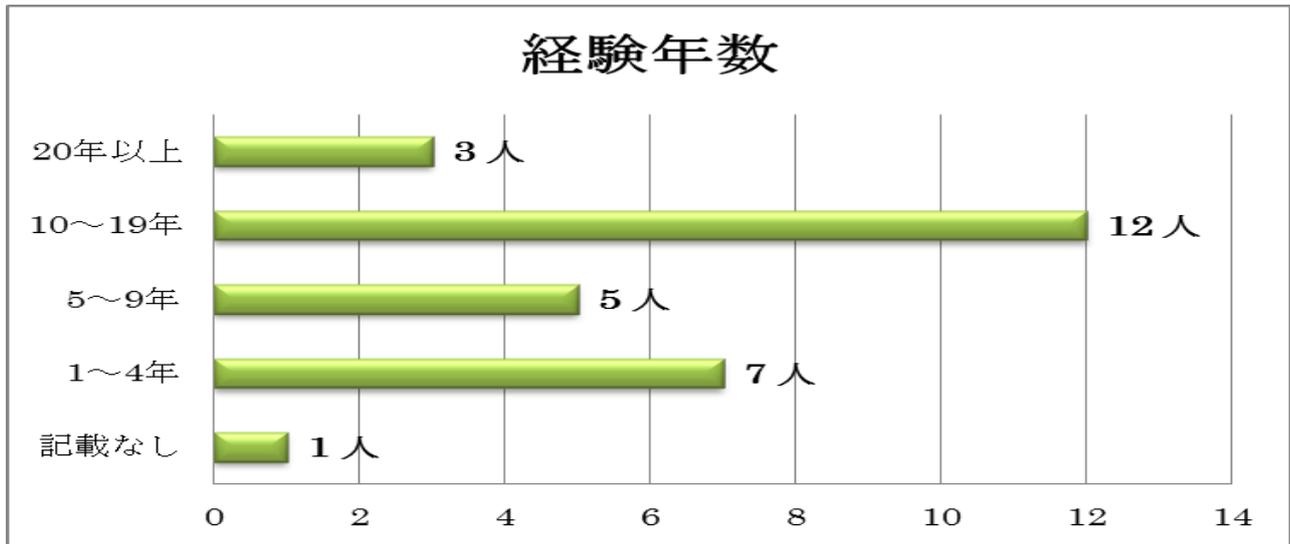
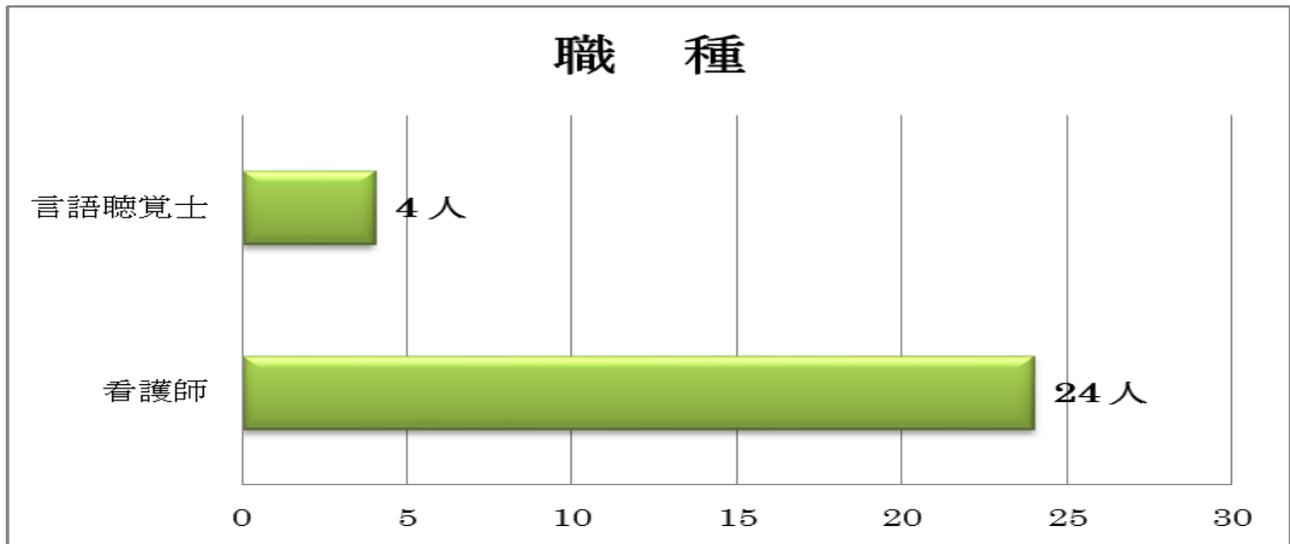
氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山珠美	NPO 法人口から食べる幸せを守る会® 理事長 伊勢原協同病院	看護師 （日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士） KTSM 実技認定者
竹市美加	NPO 法人口から食べる幸せを守る会® 副理事長 ナチュラルスマイル西宮北口歯科	看護師（摂食嚥下障害看護認定看護師） KTSM 実技認定者
一瀬浩隆	NPO 法人口から食べる幸せを守る会® あい訪問歯科クリニック	歯科医師 KTSM 実技認定者
加藤節子	ちゅうざん病院	看護師（摂食嚥下障害看護認定看護師） KTSM 実技認定者
赤嶺幸乃	豊見城中央病院	看護師 KTSM 実技認定者
山田吉里子	中頭病院	看護師
仲村雄子	中頭病院	看護師

セミナーサポート 一覧

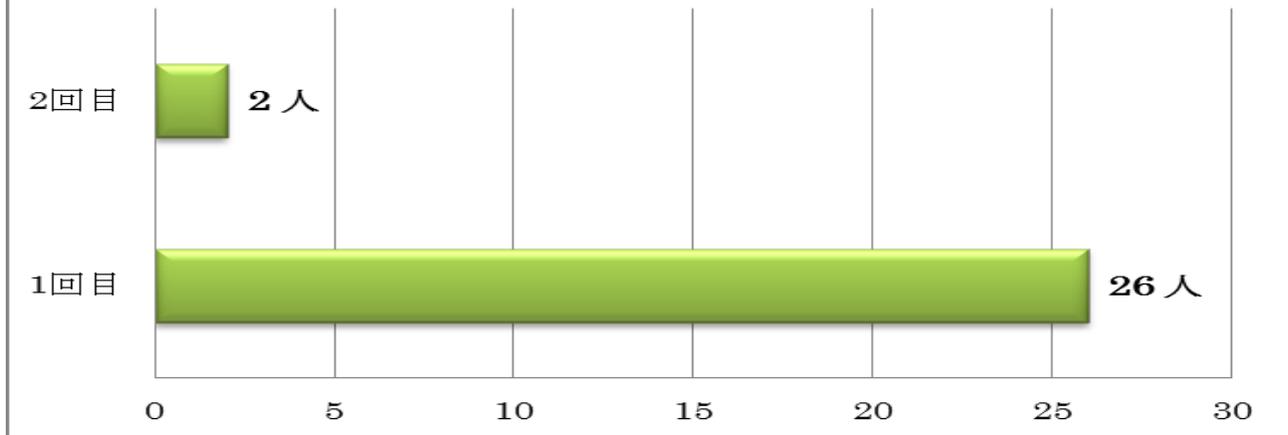
<敬称略>

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
清山美恵	アート歯科マツダ	歯科医師
建山幸	桜十字病院	看護師
中頭病院スタッフ		看護師 2名 歯科衛生士 1名 栄養課 3名 看護助手 2名 事務員 1名
ぐしかわ看護専門学校		教員 5名

アンケート集計結果 (参加者28名、アンケート回答者28名)



実技セミナー参加回数

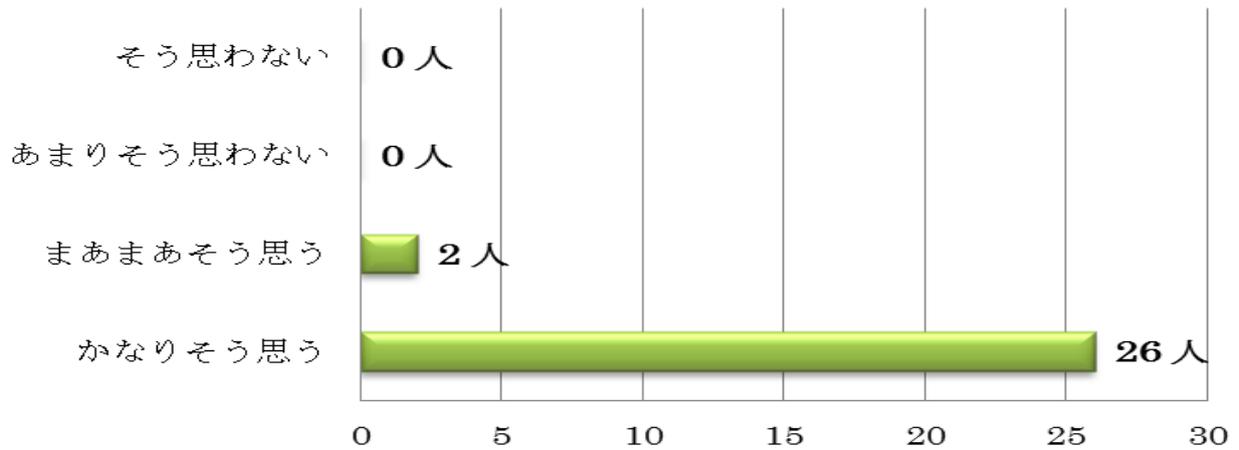


《参加理由》

*食べさせる腕を磨いて、1人でも多くの方の生きる楽しみに役立ちたい
*他スタッフ、家族への指導に役立てたい
*スキル UP 食べさせる事が出来るようにしたい
*アドバイザーの加藤さんより紹介を頂きました。STと1つの経験のみでは包括的ケアという視点が欠けている実感があつた為、受講させていただきました。
*病院からのお知らせを受けて、申込みました。
*スクリーニング評価が自分でも出来るようになりたい。
*他スタッフへの知識の共有
*勉強、スキル UP の為
*摂食嚥下チームに参加しており、技術と知識向上の為
*摂食障害のある患者様の食事介助に困っていた為
*病棟で実践出来ないか興味があつた為。
*口腔ケア委員として「口から食べること」についてもっと知識を深めたかったから。
*誤嚥性肺炎で入退院を繰り返す経口摂取患者へのケア方法を学びたかった。
*現場で摂食嚥下に関する技術向上やアプローチに役立てたいと思ったから。
*正しい食事介助の知識・技術を身につけて、病棟スタッフへも指導できるようにしていきたい
*摂食嚥下障害看護の知識だけでなく、経験を積み、それを看護に活かす、また、スタッフの教育に役立てたい。
*院内で、摂食嚥下チームとして活動しているがいまいちポジショニングの方法が分からず、ポジショニングを学びたく受講しました。
*実技を身に付け、患者さんに食事を楽しんでほしいから。
*私たちの介入によって少しでも口から食べれる患者さんを増やしたいと思ったから。
*病院では、NSTのリンクナースとして活動している中で、食事摂取量が上がらない患者さんや食事を拒否する患者さんへの対応で困ることがあるので摂食セミナーに参加し、病棟で活かせたらと思い参加しました。
*口から食べるに興味があり、関心があり、STさんの仕事を見ていて私も患者の為に少しでも役に立てる事があればと思い参加しました。
*「口から食べる幸せをサポートする包括的スキル」を読み、実技セミナーを受けてみたいと思った。

<p>*病院の摂食嚥下チームのリンクナースなので、自分の知識・技術向上の為に参加させていただきました。</p>
<p>*院内の摂食委員のメンバーになった事もあり、正しい知識を身に付け、また病棟スタッフとも共有したかった為。</p>
<p>*NSTや摂食など食べるに関するケアに興味があった。理解を深めたかったから。</p>
<p>*KTバランスチャートの活用方法と、摂取困難な患者への介助方法について学びたかった。</p>
<p>*摂食嚥下委員会に所属しており、病棟も脳外科混合病棟なので食事介助の方も多い為、確かな技術を習得したいと思い参加しました。</p>
<p>*高齢者の食事介助する事が多く、摂取量が少なかったり、嚥下障害があったりなど、どうすれば安全に必要な摂取がとれるのか看護師として悩まされる事があった。</p>
<p>*食べる為の技術を身に付けて、食べる事が維持出来る支援を行いたい。栄養の支援や評価ができるようになったのでいかして経口摂取を支援したい。</p>
<p>*摂食嚥下に興味があり、食事介助の援助で、実際に行っている事では不十分であると思っている事があったので今回参加してスキルUPを図りたかった。</p>
<p>*元はNST委員に入っていて、食事摂取ができそうな患者がPEGや栄養チューブを挿入して、患者本人はどのように思うのだろうか、口から食事摂取が本当に出来ないのかと思い参加しました。</p>

スキルアップにつながったか？

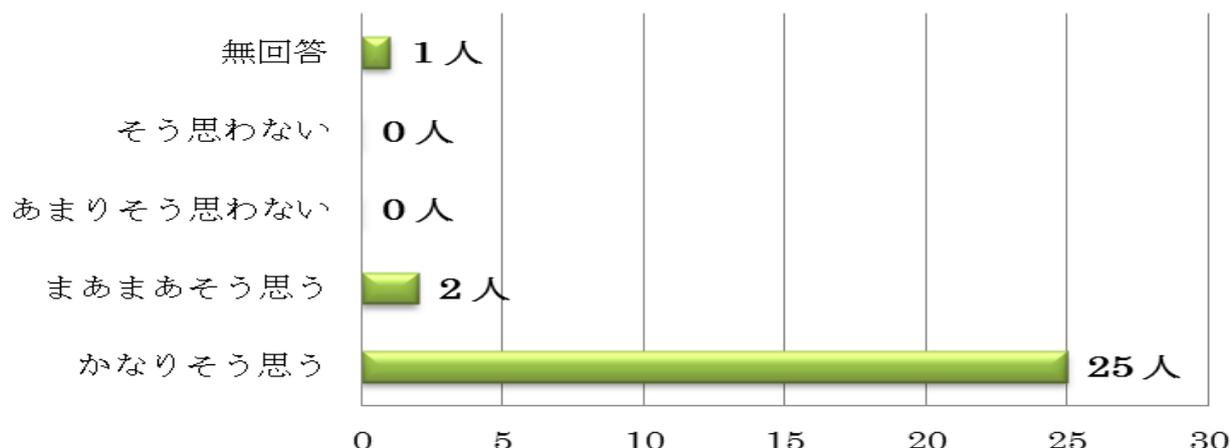


《理由》

*食べさせられる側(PT側)の気持ち・感覚を考えながら介助する事が出来た。
*技術に関する知識を持っていると思っていたところでも実際の手技としては未熟というところが沢山ありました。実現する為に(実用にできるよう)練習していきたいと思います。
*自己流になっている部分が多く、極めてもっと全体を意識しつつ、ひとつひとつを掘り下げて、日々の関わりに還元しないといけないと感じました。
*勉強になった。もっと学びたいと思った。
*技術も講義に沿ってできたためスキルアップに繋がったと思う。
*食事するサインおポジショニングやスプーンの運び方がとても勉強になりました。明日からさっそく実践してみたいと思います。
*分かった事が多くあった。今回習得した技術を活かして、病棟全体で取り組んでいきたい。スキルアップの一步になったと思う。実践して結果ができれば本当にスキルアップしたなと実感したいです。
*患者視点で必要なケア方法を知ることができた。
*普段の食事介助が患者にとって摂取しにくい(スプーンの使い方や姿勢)ことに気がついた。
*不適切なポジショニングでは腰等が痛くなり、長時間座る事自体が苦痛である。しかし、本当の良肢位(ポジション)をとることで体幹ズレが少なく、とても楽でよかった。
*現場ですぐに実践できると思った。
*患者のできる部分をのばして「食べる事」の幸せにつなげていける技術を学べたと思いました。
*実際に現場で活用できる内容で、ポイントを詳しく知ることができたのでスキルアップに繋がると思う。
*実際に患者さん役になって水飲みテストやゼリー、ギャッジアップ45°、60°と体験できたので患者さんの立場になって現場でも活かす事が出来ると思いました。
*特に体位ポジションについて、しっかり学べていなかったと反省でき、改めて技術の習得できた。
*普段すごく手を抜いていたんだと感じました。反省です。
*これまで私が行っていたポジショニングや介助を体験して、食べにくさや不快感を感じる事が分かりました。正しい方法を行う事で摂取量や楽しく食べるという雰囲気も変わる事が分かり、今後のケアに活かしたいと思いました。

<p>*実技で患者役をすることで、安楽なポジショニングがいかに重要かわかった。”なんとなく”ではなく根拠に基づいて介助をしていきたいと思った。</p>
<p>*スクリーニングの方法も、姿勢も注意した方法も実演できてとても学びになりました。</p>
<p>*何をしても食べない患者にあたったとき、あきらめてしまう事があったがそこであきらめることで、食べる幸せをうばってしまう事になる。食べない理由が沢山考えられ、13項目で評価する事でどこに働きかけたら良いのか見えてくるし、希望が持てると感じた。</p>
<p>*食べさせられる側(PT側)の気持ち・感覚を考えながら介助する事が出来た。</p>
<p>*患者の体験をすることでどうした方が良いのかがわかった。</p>
<p>*ポジショニングという基本から間違っていることが多かった。介助者ではなく、患者さんのことを「主」になっていくことの大切さを学んだ。</p>
<p>*もう少し教科書を熟知していれば、かなりのスキルアップに繋がったと思いました。</p>
<p>*同院スタッフも何名か参加しており、食事介助やポジショニングを含め共通認識した介入ができると思う。</p>
<p>*講義では実際の事例や動画を見ることで、正しい姿勢や介助のあり方について学ぶ事が出来ました。その後の実技で実際に患者役を体験することでより理解が深まりました。</p>
<p>*ポジショニングなど環境を整えることで食への意欲向上につながるので実践していきたい。</p>
<p>*スプーン操作1つをとっても、まだまだ練習が必要である事、また、ポジショニングが難しいと痛感した。</p>

今後の実践で活用できるか？

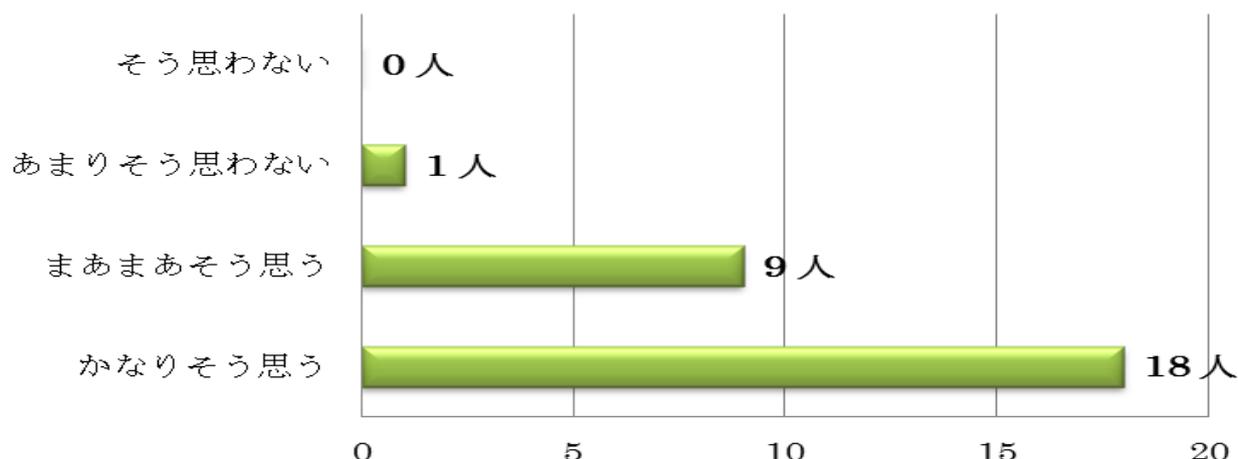


《理由》

<p>*嚥下評価・訓練場面</p>
<p>*ポジショニングについてもっとスキルを上げたい(まずは基本から)。患者様の評価、訓練でご本人の最大の能力を引き出したいです。</p>
<p>*自身の臨床(嚥下場面のみに限らず)にはすぐに役立つと感じています。1人では限界があるので周りにも伝達して統一した関わりを行える事が重要だと思いました。</p>
<p>*食事介助や離床</p>
<p>*実際の食事介助の場面で活用したいです。</p>
<p>*全介助で自力で食事できない患者様に活用していきたいと思いました。また車イスで食事摂取する際のポジショニングも活用していきたいと思います。いろいろ代用品等のアドバイスも頂いたので実践してみたいと思います。</p>
<p>*すべての患者様の食事介助時に役に立つと思いました。スクリーニング評価は、STと話し合っていきたいと思います。</p>
<p>*食事時間、患者家族への教育介入</p>
<p>*姿勢の直し方やスプーンの口腔内への運び方など</p>
<p>*患者に安楽な体勢でポジショニングする事が可能である。また、看護師でもポイントをおさえる事で嚥下評価が出来る。</p>
<p>*食事介助の場面</p>
<p>*片麻痺患者の食事摂取介助時に活用できると思いました。全介助から一部介助へつなげていく時に活用できると思いました。</p>
<p>*認知症のある方や車イス離床時のポジショニング・介助方法は活用していきたい。ベッド上でのポジショニングや介助方法は多くの場面で活用可能</p>
<p>*身体がズレながら食べている患者さんもいるので、気づいた時や食べる前にみんなでポジショニングを行ったり、食介の患者さんは五感を刺激して、今日習った介助方法を活かしてより安全安楽に介助できるようにします。</p>
<p>*患者様を離床させ、体位を保持出来る(麻痺がある方や円背の方)下肢アンブタ後の方も活用出来る。嚥下をみながら誤嚥させないために介助出来る。</p>
<p>*評価、食事介助、家族指導</p>

<p>*クッション、枕やタオルが少ない事もあり、物品を揃える事がまず必要だと感じた。意識してみるポイントが沢山学べたので患者が安楽に食べれるよう気がつく事から始めていきたいと思いました。</p>
<p>*円背や拘縮の強い患者や、認知症のある患者の食事時の介助で活用したい。</p>
<p>*病棟での食介や、スクリーニングに活用できる。またスタッフの教育にも活用出来る。</p>
<p>*食事摂取量が上がらない患者さんがいる場面で口腔内環境であったり、姿勢であったり食事形態であったりと、なぜ食べないかをしっかりアセスメントしその部分にはたらきかけたい。すぐ食べれないからとあきらめず患者さんの持っている能力を最大限にいかせるように介入していきたい。</p>
<p>*食事を取るときに、活用できると思いました。</p>
<p>*実際の食介や、家族が介助している時に気になる点があれば伝えていきたい。退院(自宅)支援に繋がられる。</p>
<p>*車イスで食事摂取の際のポジショニングもある事を知らなかったのでどんどん活用していきたいです。</p>
<p>*車イスの姿勢、クッションやバスタオルなどの物品はあるため、学んだ事を明日からやります。</p>
<p>*ベッド上で食事を取る方へのポジショニング、車椅子移乗時でのポジショニングでのポイントが分かったので現場でもつなげていけたらと思います。お粥が離水してしまうことなどは皆知らずに行っていたと思うので、その都度伝えていけたらと思いました。</p>
<p>*現場で実際に食事介助を行っているので、今回の学びを活かしたい。</p>

自身の施設で企画し研修を行いますか？



《理由》

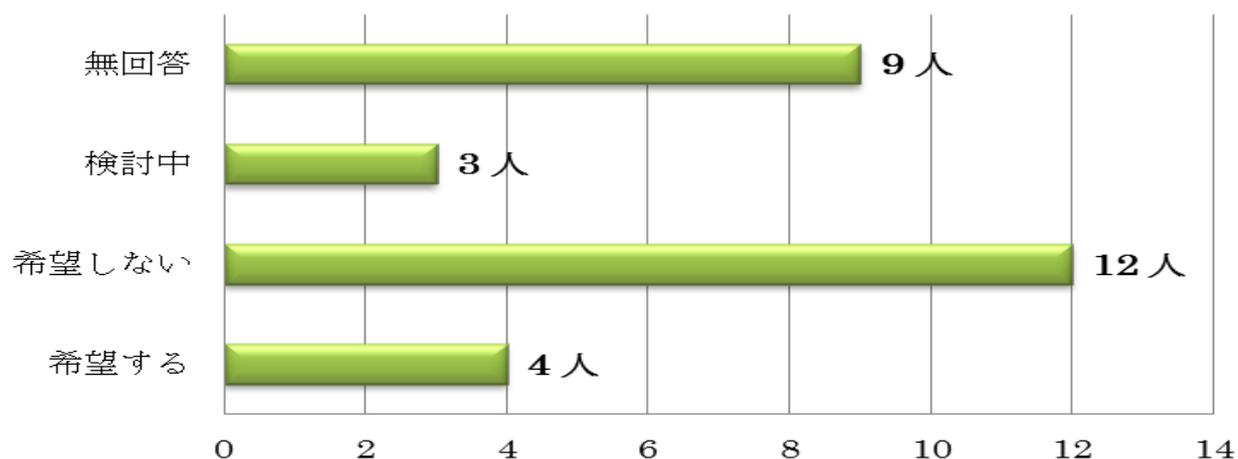
*実施したい気持ちはあるがもっと私自身の知識と技術を向上してから
*ポジショニング、介助法について、全体で取り組みたい。取り組めるのではないかと思いました。
*一緒に参加したメンバーと少しずつでも上げていきたいと思います。
*座位ポジショニングをPTとOTメインだったのでNsも介入したい。
*STスタッフと協働することで、看護師と補助者へ波及させたい。
*姿勢の直し方(ベッド上・車イス)スプーンの使用法など
*ポジショニング、また食事介助について患者の視線をズラさず食事を意識して食べる幸せについて病院スタッフ全員で活動できるよう勉強会を委員会で企画していきたい。
*少人数からでも病棟スタッフに伝えていきたい。病棟全体で取り組む事が出来たら素晴らしいと思う。
*看護師全体に向けた食事介助の勉強会を企画したいと思いました。病棟でも嚥下評価の方法をスタッフへ指導したいと思いました。
*毎日行う、食事行為が実技を通して意識が変わると思う。
*急性期病院なので経口摂取を継続して頂けるように連携施設、一般病棟、緩和のある病院と技術向上したい。出来れば、FAへ研修したい。(在宅に向けて訪問Nsも一緒に)
*病院スタッフに少しでも伝達していきたい。
*多くのスタッフの意識が変わればいいなと感じました。
*患者役を体験して貰う事でポジショニングや介助方法の重要性がわかると思う。色々な職種の人に食べる事の大切さを理解してほしいと思う。
*もっと学びを深めて、そういった企画を行い、摂食嚥下”看護”の質向上に役立てていきたい。
*年に一回、各委員会ごとに勉強会を計画しているので、摂食委員と協力して行いたい。
*他の病棟スタッフにも食事が食べれない理由は患者だけではなく、看護師の介入不足や知識不足が関わっていることを学べる研修や、もう少し細かい技術演習を行いたいです。
*ポジショニング、食事介助を個々の対象に合わせて行いたい。病棟やNST、摂食チームと連携してできたらと思います。
*食事介助の方法やポジショニングなどは、皆で共有できたらと感じました。

※まだまだ未熟なので実技を指導するのは難しいと思うので、当院の摂食嚥下認定看護師の方や今回、一緒に参加した皆で行いたいと思います。

《取り上げてもらいたい内容》

*排痰や咳漱力 UP の技術
*まずはテキストをしっかり読みます。
*認知症による拒食等の場合の対応や高次脳機能障害の対応
*研修医、医師対象のセミナー開催
*今回学んだ事を自施設で取り組んでいきたい。その内容を含めて再度ポジショニングの事を学べる場で行きたいと思った。
*口腔ケアの介助方法
*今回は実技になかった、口腔ケアや高齢者に対する介助円背の方など
*KTBT を私用しながらのセミナー（病例をあげて、アセスメントしながらの対応方法など）
*口を開けない患者の口腔ケア、食事介助、嚥下評価のコツ(PT の為になる)
*こう縮のある患者のポジショニングなど知りたいと思いました。
*開口しない患者へのアプローチ(スプーンの入れ方など)
*KT バランスチャートの使用方法や事例を通しての評価やケア方法の検討について学びを深めたい。
*視覚障害、聴覚障害、知覚障害など
*KT バランスチャートの事例などで使い方をやっていきたいです。
*認知症患者の食事介助方法

KTSM実技認定審査を受けますか？



《実技セミナー風景》

【全体講義】



安全に美味しく食べ続けていくために必要となる包括的視点での食事支援について、基礎知識から実践方法、KTバランスチャートの活用などを学びました

【ベッドサイドスクリーニング評価】

安全に早期摂取開始につながる評価について、頸部聴診を併用したベッドサイドスクリーニング評価を実施しました。ポジショニング、水の注水方法、ゼリーの捕食介助の方法など、対象の良好な機能を引き出せる手技を学びました



【食事介助】

ポジショニング、適切な食事介助方法、シーティング、セルフケア拡大に向けた介助など、安全・安楽・自立を目指した食事介助方法について学びました。また、不適切な介助、不良姿勢なども体験することで、介助方法によって誤嚥・低栄養・苦痛などを伴うことを体験しました。



【グループ写真】

1 G



2 G



3 G



4 G



5 G



6 G



サポートいただいた看護学校教員と中頭病院スタッフ





今回のセミナーは初めての試みでしたが、
スタッフの協力・チームワークによって、楽しく受講されておりました。
ご参加いただいた皆様ありがとうございました。